



連携4事業 成果を報告

愛媛大・松山大 医療人材育成など

愛媛大と松山大が取り組む地域活性化促進連携事業の成果報告会が28日、松山市道後樋又の松山大であり、2017年度に実施した4件のプロジェクト内容や成果を発表した。

愛媛大大学院医学系研究科の薬師神芳洋教授は、がん医療を横断的に行う専門職が少ない現状を指摘し、県内の次世代を担う人材の育成事業を実施。両大学の意欲ある学生を県外のがん

専門施設へ引率して実習を行い、チーム医療や愛媛のがん医療との違いを体感させたほか、学会への体験参加などを行った。「広く他の学生にも還元し、将来のがん診療のリーダーを輩出したい。継続することが大切」と事業の重要性を訴えた。

ログラミング教育を通じた離島地域の教育振興や、東予の地域資源を活用した「愛媛学」の構築、産官学の連携強化を図る愛媛微生物学研究会（N A M E）の取り組みも報告された。

（伊藤絵美）

【紙面編集】山下直人

愛媛大と松山大が2017年度に実施した連携事業の成果報告会―28日午後、松山市道後樋又

連携事業は交流協定に基づき、10年度から実施。両大の教員らが共同で申請した研究テーマ（単年度）から、毎年6件程度を採択している。

愛媛大と松山大が取り組む地域活性化促進連携事業の成果報告会が28日、松山市道後樋又の松山大であり、2017年度に実施した4件のプロジェクト内容や成果を発表した。

愛媛大と松山大が取り組む地域活性化促進連携事業の成果報告会が28日、松山市道後樋又の松山大であり、2017年度に実施した4件のプロジェクト内容や成果を発表した。

愛媛大と松山大が取り組む地域活性化促進連携事業の成果報告会が28日、松山市道後樋又の松山大であり、2017年度に実施した4件のプロジェクト内容や成果を発表した。